

研究成果報告書

(国立情報学研究所の民間助成研究成果概要データベース・登録原稿)

研究テーマ (和文) AB		人口増加に伴う樹木利用の精緻化とその定量的評価:セネガル共和国セレール社会の事例			
研究テーマ (欧文) AZ		Quantitative Analyses on Population Growth and Elaboration of Tree Use Technique: A Case of the Sereer people in Senegal			
研究氏 代表 表名 者	カタカナ CC	姓)ヒライ	名)マサキ	研究期間 B	2008 ~ 2010 年
	漢字 CB	平井	將公	報告年度 YR	2010 年
	ローマ字 CZ	Hirai	Masaaki	研究機関名	京都大学
研究代表者 CD 所属機関・職名		京都大学アフリカ地域研究資料センター・研究員 / 京都大学東南アジア研究所・研究員			
概要 EA (600字~800字程度にまとめてください。)					
<p>農業と牧畜を基幹生業とするセレールの人びとは、枝葉や果実を肥料・飼料・燃料として利用するマメ科高木のサース(<i>Faidherbia albida</i>)の優占する植生を、耕地内に形成し、長年にわたって維持してきた。しかし、近年、3.2%/年という高い人口増加や、枯死個体を補う行為の不履行を背景として、サースの稀少性は高まる傾向にある。本研究では、こうした資源維持の問題に住民がいかに対処しているのかについて切枝技術と樹木の成長という観点から検討した。</p> <p>現地調査の結果、サースの利用を持続化させるため、人びとは、枝葉の切枝技術を改変していることが明らかとなった。彼らの間では、サースを連年放置したり、樹冠の大部分を短期間に採取したりすると、その樹勢が弱まるという認識が定着している。その理解のもと、近年では、前回の切枝から十分に回復した葉群が切枝対象として選択されるようになってきている。また、樹形や樹勢を維持するため、個々の木の状況にあわせた切り方や道具が用いられている。</p> <p>回復した葉群を切枝対象とすることによって、各個体が受ける負荷は軽減される。そうした選択を可能としている社会的要因は、サースの用益権のあり方にもとめられる。サースは、それが生育する耕地の所有者に帰属する一方、枝葉については村の全成員者に切枝が容認されている。それによって切枝対象の選択幅は大きく広がっている。また、他者の木を切るという行為は、他者の木への配慮として作用し、特定個人による過剰な利益追求が抑止されている。</p> <p>2006年から2009年までサース個体群の胸高直径を計測した結果、年間の肥大成長は0.06cmでしかなかった。自然条件にあるサースの肥大成長は1-4cm/年であることを考慮すると、この地域のサースは生存に必要な最低限の枝葉を除いてすべて採取されていると推測された。また、サースの枯死率は1.2%/年と低いものであった。このことから、人びとは、サースが生きた状態にあることを重視しつつ、サースから得られる効用を最大化していることが明らかとなった。以上から、人びとは技術や社会的条件を改変することによってサースの利用を持続していると考えられた。</p>					
キーワード FA	サバンナ	人口増加	資源利用	在来技術・制度	

(以下は記入しないでください。)

助成財団コード TA					研究課題番号 AA								
研究機関番号 AC					シート番号								

発表文献（この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。）									
雑誌	論文標題 <sup>GB</sup>	貴重な枝をいかに切るか？－セネガルのセレール社会における資源利用の精緻化－							
	著者名 <sup>GA</sup>	平井將公	雑誌名 <sup>GC</sup>	生態人類学会ニュースレター					
	ページ <sup>GF</sup>	10～13	発行年 <sup>GE</sup>	2	0	1	0	巻号 <sup>GD</sup>	15
雑誌	論文標題 <sup>GB</sup>								
	著者名 <sup>GA</sup>		雑誌名 <sup>GC</sup>						
	ページ <sup>GF</sup>	～	発行年 <sup>GE</sup>					巻号 <sup>GD</sup>	
雑誌	論文標題 <sup>GB</sup>								
	著者名 <sup>GA</sup>		雑誌名 <sup>GC</sup>						
	ページ <sup>GF</sup>	～	発行年 <sup>GE</sup>					巻号 <sup>GD</sup>	
図書	著者名 <sup>HA</sup>	平井將公（編 木村大治・北西巧一）							
	書名 <sup>HC</sup>	サバンナ帯の人口稠密地域における資源利用の生態史—セネガルのセレール社会の事例— 『森棲みの生態誌—アフリカ熱帯林の人・自然・歴史—』13章、pp.263-294							
	出版者 <sup>HB</sup>	京都大学学術出版会	発行年 <sup>HD</sup>	2	0	1	0	総ページ <sup>HE</sup>	x xi +435
図書	著者名 <sup>HA</sup>	平井將公							
	書名 <sup>HC</sup>	西アフリカ・サバンナ帯の人口稠密地域における生業変容と植生管理に関する研究—セネガルのセレール社会を事例として— 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士論文							
	出版者 <sup>HB</sup>	京都大学	発行年 <sup>HD</sup>	2	0	0	9	総ページ <sup>HE</sup>	286

#### 欧文概要 EZ

The Sereer whose main livelihoods are agriculture and livestock feeding, have been maintaining anthropogenic vegetation dominated by *saas* tree (*Faidherbia albida*) of which the shoot and fruit are excellently useful as a manure, fodder and firewood, for a long time. However, the scarcity of the tree increases more and more because of recent high rate population growth. In this study, I examined how Sereer cope with the resource scarcity problem from three viewpoints: improvement of pollarding technique, institutions to use the tree, and quantitative analysis on tree growth.

The practice of the people to cut branches to collect the leaves or fruits, can bring unexpected-influence to shoots regrowth and decrease the amount of leaf which can be used as manure. To avoid this unfavorable effect, the people employ their particular pollarding technique called as *yar* which means upbringing in sereer idiom.

People's perspectives of *yar* practice are to improve the light reception condition of tree crown and to increase leaf amount by cutting branches. To evaluate its effect, I measured trunk diameter of *saas* in natural condition and those growing around village site from 2006 to 2009. The result is that the former grew in rate of 1-4cm/year, but that of the latter was only 0.06cm/year. This is showing that the people cut all but minimum amount of branches needed for the tree growth and the shoots regrowth for the next season. This represents that *yar* is a technique to maximize collectable leaves and fruit as fodder while securing the tree's survival and regrowth.